岐阜大学創立 70 周年記念イベント

岐阜がロケ地となった映画

岐阜大学創立 70 周年記念イベント

岐阜がロケ地となった映画

開催日：2019 年 6 月 8 日 (土) ・9 日（日）
会場：柳ケ瀬ロイヤル劇場
上映協力：岐阜土地興業株式会社

◆上映プログラム

6 月 8 日 (土)
10:00-10:03　開幕の挨拶　野村幸弘
10:03-10:10　岐阜大学長 森脇久隆の挨拶
10:10-12:15 **「ジェネラル・ルージュの凱旋」**(123 分)
12:15-13:15　休憩
13:15-13:40　**森脇久隆×磯谷貴彦　特別対談**
13:50-16:10 **「人生劇場」**（138 分）
16:25-18:30 **「ジェネラル・ルージュの凱旋」**(123 分)

6 月 9 日（日）
10:00-11:45 **「白い魔魚」**(103 分)
13:00-14:25 **「拳銃無頼帖　明日なき男」**(84 分)
14:45-17:00 **「サトラレ」**（130 分）

目　次

今回のイベントについて	森脇久隆　野村幸弘
「ジェネラル・ルージュの凱旋」	長屋倫明　二村孝史
「人生劇場 」	長屋倫明
「白い魔魚」	長屋倫明　二村孝史
「拳銃無頼帖　明日なき男」	長屋倫明
「サトラレ」	二村孝史　鷲見浩二
「ジェネラル・ルージュの凱旋」のロケ地を調査する	野村幸弘
岐阜の映画を解読する一「聖地」であるとはどういうことか	内田　勝
神山征二郎『郡上一揆』	田澤晴子
岐阜出身の映画監督篠田正浩——その演劇的作品世界	矢橋　透
岐阜がロケ地となった映画一覧	長屋倫明・鷲見浩二編

今回のイベントについて

岐阜大学は、1949（昭和 24）年 5 月 31 日に新制国立大学として発足以来、本 2019（令和元）年 70 周年を迎える運びとなりました。これもひとえに卒業生ならびに地域の皆様方の温かいご支援の賜と心より感謝申し上げる次第です。この間、私共は社会の期待に応える「学び、究め、貢献する」人材の育成を最大の使命とし、様々な教育研究活動に取り組んで参りました。現在、教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部の 5 学部・8 研究科をはじめ、多くの学内教育研究施設を有する東海地方の拠点中規模総合大学としてその地位を確立し、「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み、特色を有する分野で国際的、全国的な教育・研究拠点の形成を目指す」ことを目標に、教職員一同邁進しています。さらに 2020（令和 2）年 4 月からは、国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学として次の飛翔にかかるところです。

一方この 70 周年を契機として、学内に蓄積されてきた知の資産を大切にし、未来に継承していく取り組みにも注力しました。すなわち岐阜大学には教育学部に保存されている古文書等の歴史資料や植物標本等をはじめとして各学部に貴重な学術資源が数多く存在しています。この機会にこれらを学内全体で洗い出し、再整理し、保存していくこと (キャンパスの学術アーカイブ化あるいはキャンパス・ミュージアム) は科学、文化振興を担う大学としての使命であると考え、一つの事業として実現しました。加えて今年幅広く行われる関連行事（https://www.gifu-u.ac.jp/70th/70th_news.html）や「岐阜大学酒」の完成など、広く皆様方にお楽しみ頂けるものと思います。

その中で特別企画の一つが岐阜大学創立 70 周年記念イベント「岐阜がロケ地となった映画」です。そもそも大学で高度専門職を目指し勉強を進めて行く上で、また卒業後、様々な職種で活動を展開して行く上で、豊富な基礎的素養を有していることは必要条件の一つです。その方法は例えば岐阜大学ではバラエティに富む全学共通科目を履修することでしょうが、加えてジャンルを問わず本を読むこと、音楽を聴くこと、絵画などを観ること、等は時間を豊かにしてくれる効果も併せてお勧めします。特に映画を見ることが大事なファクターとなる方も（小生を含め）少なくありません。

さて岐阜大学は将来ビジョンのうち「教育」の旗印の一つに「高度な専門職業人の育成」とともに「地域単位での teach for communities」を挙げました。後者は「自分の住む土地をよく知り、好きになり、他者にもその土地について上手に説明できる人を育てる」という意味です。自分の住む土地をよく知る為の切り口の一つは、歴史、伝統を熟知することでしょう。その一環として土地々々の過去を辿るとき、最も信頼できる資料が文書類であることは言うまでもありません。またその信頼性を上げるのは古老の記憶であり、それに何らかの画像や音声が加われば情報はほぼ完璧になります。画像には絵画、写真、動画・映画などがありますが（以下、かなり強引な展開になります）、特に今回は当地でロケが行われた映画に着目し、岐阜県、岐阜市、岐阜大学の歴史を振り返る企画を有志と共に秘かに練ってきました。

私どもの調査では岐阜にゆかりの映画は 2019 年現在公開ベースで 88 本に上り（本パンフレット巻末の一覧表をご覧ください。これ自体大変貴重な資料です）、その中から今回は第 1 日目に岐阜大学でロケされた「ジェネラル・ルージュの凱旋」（2009 年、東宝、現在の岐阜大学医学部付属病院）、「人生劇場」（1983 年、東映、各務原市の旧農学部校舎、ちなみに農学部の柳戸移転は 1982 年です）、第 2 日目に「白い魔魚」（1956 年、松竹、岐阜市）、「拳銃無頼帖　明日なき男」（1960 年、日活、岐阜市）、「サトラレ」（2001 年、東宝、郡上市）を上映します。同窓の方々には岐阜大学のキャンパスを、市民の皆様には昭和 30 年代の岐阜市、高山市の風景を楽しんで頂ければ幸いです（などと小難しいことを言わずとも、小生などは自分が知っている場所が映画に出てくるだけで嬉しくなります）。

最後にこの場をお借りして一連の岐阜大学創立 70 周年記念事業に多大のご支援をいただいた皆様方に心より御礼申し上げます。特に本企画の実現にあたって岐阜土地興行株式会社　篠田元弘社長、磯谷貴彦企画本部長にはここに記しきれないお力添えを頂戴しました。お二人の御援助がなければ本企画は成立し得なかったであろうことを記して深謝致します。岐阜大学は今後とも社会の期待に応えるべく教職員一同がんばって参りますので、一層のご指導、ご鞭撻を頂けますようお願いし、ご挨拶と致します。

2019 年 6 月 8 日

森脇久隆（岐阜大学学長）
野村幸弘（岐阜大学教育学部教授）

©2009 映画「ジェネラル・ルージュの凱旋」製作委員会

ジェネラル・ルージュの凱旋

2009 年 3 月　東宝系公開

監督　中村義洋

出演　竹内結子，阿部　寛，堺　雅人，羽田美智子，高嶋政伸

海堂尊の長編小説の映画化で同作者の「チーム・バチスタの栄光」の続編。岐阜大学医学部附属病院で大々的なロケを敢行。スタッフ，キャストは 2008 年 12 月に 1 週間程度岐阜の地に留まり，毎日医学部及び医学部附属病院で撮影を行った。病院内で次々発生する怪事件，田口医師（竹内結子），白鳥厚生労働省大臣官房秘書課付技官（阿部　寛）が事件解決に向けて活動する中，折しも多重交通事故による災害が発生して --- 大学関係者もエキストラで多数出演。あの顔，この顔を画面の中で探し出すのも一興。（長屋）

近くのショッピングセンターで発生した火災事故の被害者が次々と担ぎ込まれる、エキストラ約 800 人が参加した病院ロビーでのトリアージのシーンは、赤・黄・緑に色分けされた患者を医師や看護師が入り乱れて処置を行う様子が描かれ、芝居とは言え岐阜大学病院の救命医療機能を明確に示したリアルな迫真のシーンで描かれている。（二村）

© 東映

人生劇場

1983 年 1 月　東映系公開

監督　深作欣二，佐藤純彌，中島貞夫

出演　三船敏郎，永島敏行，松坂慶子，松方弘樹，若山富三郎

尾崎士郎の同名小説の 13 度目の映画化。岐阜大学が統合前，各務原にあった那加分館において，岐阜大学を主人公青成瓢吉の出身大学の早稲田大学としてロケ撮影。岐阜大学の標識を「早稲田大学」として撮影しているので要注目。懐かしい那加分館の様子を垣間見ることもできる。作品は，3 人の東映系監督が共同していることから，作品に統一的なムードがないところもあるが，どのシーンをどの監督が手掛けたのかを想像しながら見るのも一興。今どきの映画ではなかなか見られない男と女の熱い姿をぜひ目に焼き付けてほしい。（長屋）

（イラスト：野村百花）

© 1956 松竹株式会社

白い魔魚

1956 年　松竹系公開

監督　中村　登

出演　有馬稲子，石浜　朗，高峰三枝子，上原　謙

今でも昔ながらの面影を残した川原町，1956 年にこの地を舞台に作られたこの作品，中村登監督は抒情派として映画史にもその名を残し，ここでも長良川沿いの美しい風景を背景にした抒情的なドラマを見せてくれるだろう。有馬稲子の美しさにも注目されたい。（長屋）

ヒロイン・有馬稲子の「サイテーね」というセリフが印象深く、今日に至る女性の慣用表現としてこの時代でも使われていたのは新鮮な発見である。純愛を貫く女子大生役の有馬稲子の行動は「新しい女性像」として観客に受け入れられたであろうし、昭和 31 年の作品ながら現代の若者像と重なる。昭和 30 年代の風俗や、岐阜ロケに見る長良川周辺の風景や鵜飼の様子をカラーで見ることができる貴重な作品でもある。（二村）

拳銃無頼帖　明日なき男

1960 年　日活系公開

監督　野口博志

出演　赤木圭一郎，宍戸錠，笹森礼子，南田洋子，藤村有弘

赤木圭一郎の「拳銃無頼帖」シリーズの第四段，本作では，岐阜駅前にヤクザの事務所がのさばっており（金の信長像が出現する前，岐阜駅は日本で一番サミシイ県庁所在地駅としてその名を馳せており，その当時には駅前にヤクザの事務所が屹立していたと言われても不思議はない雰囲気だった？），駅前でいきなり銃撃アクションが展開するところから始まる。当時の岐阜駅前の様子を見るのも興味深く，１時間３０分にも満たない時間を日活アクションならではの独特のムードで突っ走ってくれる。これまた今どきの日本映画ではほとんど見られないノー天気系ムード・アクション。こういう作品が観客を大いに沸かせていた時代が確かにあったのだ。刮目されたい。（長屋）

© 日活

サトラレ

2001 年　東宝系公開

監督　本広克行

出演　安藤政信，鈴木京香，八千草薫，寺尾聰，内山理名，松重豊

踊る大捜査線シリーズの本広克行監督と、相棒の脚本で有名な戸田山雅司が贈る、〝サトラレ〟と彼を取り巻く人々とのふれあいを心温まるタッチで描いた作品。主人公が外科医として暮らす岐阜県の山間の町を、郡上市八幡町で撮影しており、おなじみの吉田川にかかる新橋や郡上八幡旧庁舎をはじめ、奥美濃の美しい景色が目を楽しませる。喋らずとも自分の心が周りの人々に“悟られ”てしまうという不思議な能力を持つ〝サトラレ〟を安藤政信、彼を研究者に引き込む極秘任務を持つ精神科医を鈴木京香、そして主人公の祖母を名女優・八千草薫が演じており、泣かせるエンターティメントとして手堅い作品となっている。（二村）

© サトラレ対策委員会

邦画としては珍しい 130 分という長編作品ではあるが、目まぐるしく展開する内容で観る者を引きつけるのは、さすが本広克行監督。作品の根幹をなす設定や劇中の小道具が非常に凝っているところは、監督の代表作である「踊る大捜査線」に通じる。主人公が勤務する病院のロケ地は、竣工したばかりの中濃病院（現在の中濃厚生病院）。前日に上映される「ジェネラル・ルージュの凱旋」で使われた、本学医学部附属病院との撮影場所、アングルを比較するのも楽しい。たおやかな和服姿の八千草薫、凛々しい自衛官服姿の鈴木京香、藤木悠、黒部進など、東宝特撮映画ファンにも満足いただける作品である。（鷲見）

© サトラレ対策委員会

© サトラレ対策委員会

『ジェネラル・ルージュの凱旋』のロケ地を調査する

野村幸弘【岐阜大学教育学部教授（美術史学）】

学生時代、イタリアに留学していた時に、わたしは偶然、ローマのパンテオン前で映画の撮影をしている現場に遭遇したことがある。『ローマの休日』をはじめ、イタリアは映画のロケ地となることがもっとも多い国のひとつなのだろう。こんな出来事はイタリアでは日常茶飯事で、その時は観光名所を舞台にするなど芸がないな、と思っていたが、それが帰国後、これまた偶然見たピーター・グリーナウェイ監督の『建築家の腹』という映画のワンシーンであったことを知っておどろいた。現実のパンテオンと映画のストーリーの中のパンテオン。現実と虚構が重なり、頭の中を得体の知れない色彩がじわじわと広がって行くような感覚におそわれたのをよく覚えている。

映画製作でセットを組まずにロケを選択するのには、予算の問題や観光のPR、地域振興など、さまざまな理由があると思われるが、その際、とくに重要なのは、やはりそのロケ地が映画のストーリーや内容に不可欠な要素となっていることだろう。グリーナウェイの『建築家の腹』では、主人公の建築家が西洋建築史上の傑作、パンテオンを賞賛して拍手する場面だったが、これをセットで再現する意味はない。迷わずパンテオン広場でロケを敢行するだろう。

ある場所がロケ地に選ばれる場合、このように必然性をともなう映画もあるが、ストーリーに従属し役立ち貢献する範囲内で扱われ、表現されることのほうが、おそらく多いのではあるまいか。『人生劇場』では岐阜大学農学部のキャンパスが早稲田大学になり、『ジェネラル・ルージュの凱旋』では、岐阜大学医学部付属病院が東城大学医学部付属病院となってスクリーンに映し出される。後者の場合、おそらくストーリーの展開上、ドクター・ヘリを備え、緊急搬送された大勢の負傷者の手当てをするのに都合のいい「劇場型」の大きな吹き抜けロビーを有しているという条件が、岐阜大学医学部付属病院に揃っていたという事情によると推測できるだろう。

この場所を映画監督、あるいは撮影監督が、映画の舞台としてどのように利用したのかを調べるために、わたしは映画を見た後、じっさいに岐阜大学医学部付属病院にあらためて行ってみた。

まず大学病院全体の外観（図1）は、映画にはまったく出て来ない。メイキング映像で取り替えるところが映っていたエントランス正面（図2）の「東城大学医学部付属病院」の看板も、ほぼ映し出されない。興味深いのは、映画では吹き抜けロビーの大空間をシンメトリーに捉えたシーン（図4・5・6・7）がないことである。もっとも山本太郎扮する佐藤拓馬救命救急福センター長が、数多くの負傷者を受け入れる映画のクライマックスで「どうしても受診してほしい方、2階へ！」と叫ぶ、2基のエスカレーターを備えた大階段（図3）のシーン、そして救命行為がひと段落したロビー最後の俯瞰場面に、シンメトリーの構図が採用されているが、しかしよく見ると、左右がわずかではあるが均等になっていない。ということはつまり、この映画ではシンメトリーの構図は、周到に排除されているのである。

映画と似た構図をデジタルカメラでなぞってみると、2階からの俯瞰場面では、かならず太い角柱が奇数本、目立つようにレイアウトされていることが分かる（図8・9）。この角柱は、映画では赤・黄・緑に色分けされ、負傷の程度を表す目印として活用され、画面の色彩設計の面でも重要な役割を果たしていた。

また病院の窓ガラスにマスコミが殺到するのに気づいた佐藤副センター長が、ロールカーテンを下ろすよう指示するシーンでも、画面右側を大きな角柱が遮っていたし（図10）、医療メーカーの支店長、磯辺信也が墜落死するシーンでも、医学部2階のデッキ右側に大きな円柱が配され（図11）、構図感覚が共通しているのが見てとれる。同じくその墜落死の舞台となった医学部棟は、球形水槽が非常に特徴的な概観をしているのだが（図12）、映画ではその造形要素は完全にフレームアウトされていた（図13）。

このように岐阜大学付属病院の建築の特徴をうまく使いながらも、極力、岐阜大学付属病院であることを感じさせないような演出方法がとられている。もちろん、倫理委員会が開かれるロケ地としての名古屋国際会議場も同じように扱われている。つまり現実を虚構の中にうまく溶け込ませようとしているのである。こうしたロケ地の使い方は、おそらく映画製作の現場では一般的だと思われる。けれども、観客の立場から言えば、たまたま撮影現場を見学したり、エキストラで出演したり、その1回かぎりの体験を伴わないかぎり、現実と虚構が重なる、なんとも形容しがたい感覚に包まれることはないだろう。ロケの魅力とは、同じ場所にいたという1回きりの体験が、その場所に立つたびに、現実ではなく、虚構の記憶をよみがえらせるところにあるのだろう。ローマに行けば、わたしがかならずパンテオンに立ち寄るのは、そのためである。

図1

図2

図3

図4

図5

図6

図7

図8

図9

図10

図11

図12

図13

（写真はすべて筆者撮影）

岐阜の映画を解読する——「聖地」であるとはどういうことか

内田　勝【岐阜大学地域科学部教授（英文学）】

岐阜から東京までタクシーで帰る？

映画『ジェネラル・ルージュの凱旋』（2009 年）の結末近くのシーンで、殺人事件の謎を解明した厚生労働省の役人・白鳥圭輔（阿部寛）は、事件の舞台となった東城大学医学部付属病院を去っていく。彼はタクシーの運転手に行き先を告げる。「厚生労働省」。その途端、観客である私は強烈な違和感をおぼえる。この人物は、はるばる岐阜から東京までタクシーで帰ると言うのか？ なぜなら画面に映っているのは、岐阜大学に勤める私にとってあまりに見慣れた風景である、岐阜大学医学部附属病院の正面玄関だからだ。タクシーに乗り込もうとする阿部寛を後方から捉えたショットで、もしもカメラがもう少し左に回り込めば、そこにはバス停があり、岐阜駅に向かうバスを待つために長蛇の列を作っている患者たちや学生たち、そして私自身の姿が映し出されるかもしれない。なんだか私自身が映画の中に入り込んでしまったような、不思議な感じがする。そんなふうに、自分が暮らす現実世界と映画の中の虚構世界が一気につながってしまう感覚こそが、映画における「聖地」を作り出していると言えないだろうか。そもそも、映像作品において「聖地」であるとはどういうことなのだろうか。

©2009 映画「ジェネラル・ルージュの凱旋」製作委員会

聖地は記憶を保存・蓄積する

聖地とは本来、信仰または伝承によって神聖視され、崇拝や巡礼の対象となる場所である。特定の場所に何らかの神聖な力が顕示されることによって「それまでは俗的空間であったものが、聖なる空間に昇格する」のだ（エリアーデ、p.57）。聖地という概念を緻密に定義した植島啓司は、定義の一つとして「聖地では神話と場所が密接に結びついて一種のメモリーバンク（記憶装置）としての役割を果たしている」という性質を挙げている。ここで重要なのは、聖地に保存されている記憶が、神話を信じるコミュニティ全体の記憶だけではなく、訪れる人たち自身の個人的な記憶をも含んでいることだ。植島によれば、「いつ、どのようにして、そこを訪れたかということ——すなわち、移動の記憶こそが、聖地には長い年月にわたって折り重なるように堆積している」のであり、「それを読み解く行為は、そのまま自分自身について知るということにもなる」という。

ポップカルチャーにおける聖地もまた、宗教的な聖地が持つ「記憶装置」としての性質を引き継いでいる。聖地巡礼ビジネスを論じた岡本健は、歴史上の人物の聖地、スポーツファンにとっての聖地、映画やアニメ、小説の舞台としての聖地、パワースポットとしての聖地など、多種多様な「聖地」すべてに共通する特徴は、それが「かかわる人々にとって大切な場所」であることだと書いている。ある場所が大切になるのは、それが個人的な楽しい記憶と結びついているからだろう。映画やアニメの舞台を訪れても作品の登場人物に会えるわけではないのだが、作品を見た体験の大切な記憶につながる場所を訪れることで、現在の自分が記憶の中の世界につながるような感覚が味わえるのだ。

さらにそうした個人の記憶は蓄積して聖地の神聖さを高めていく。TV アニメ『氷菓』（2012 年）の舞台となった岐阜県高山市を聖地巡礼するファンを対象にした岡本健の調査によれば、聖地を訪れたファンがブログなどで発信する巡礼記などによって「聖地に関するデータベース」と言えるような情報の集合体が構築され、それが新たな巡礼者を呼ぶことになるという。岡本亮輔は、聖地としての真正さが公的な権威によって認められたものを「冷たい聖地」と呼び、ある場所を神聖視する人々の関わり合いによって聖地としての真正さが生み出されていくものを「熱い聖地」と呼んでいる。「聖地を支えるのは場所を軸に結びついた人々であり、その共同性によって聖地は真正な場所になる」と彼は書いているが、アニメや映画の舞台はまさにファンと地域との関わり合いが生み出す「熱い聖地」だろう。

©2009 映画「ジェネラル・ルージュの凱旋」製作委員会

聖地のノスタルジア

自分自身の感動の記憶と結びついた魅力的な映画やアニメの舞台となった場所は観客にとって聖地となるが、作品自体が呼び起こす感動の度合いとは関係なく、作品の舞台が聖地になってしまう場合がある。観客の地元が作品の舞台となる場合だ。岐阜県で暮らす私たちの場合、このパンフレットで紹介されている映画や数々のアニメ作品を含め、地元の地域を舞台とする映像作品には事欠かない。

もちろん作品の舞台をどの程度「聖地」と感じられるかは、その場所への思い入れの深さによって変わる。かつて各務原市にあった岐阜大学の那加校舎を知らない私には、映画『人生劇場』（1983 年）に早稲田大学として登場する那加校舎を「聖地」と感じることができない。一方、アニメ映画『君の名は。』（2016 年）に飛騨古川駅や JR 名古屋駅の地下通路が登場する時、私は映画の物語を逸脱して興奮してしまう。なぜならそれらは私が降りたことのある駅であり、いつも通勤で通っている通路だからだ。懐かしい大切な風景が記録された映画が、地元の観客にとって「聖地」の映画になるのだ。

ある地域を舞台とする映画にことさら「聖地」性が感じられるのは、失われた風景がそこに記録されている場合だろう。アニメ映画『この世界の片隅に』（2016 年）は、今は平和記念公園となっている戦時中の広島市の中心市街地の風景を、当時の資料や証言に基づいて鮮やかに再現してみせた。監督の片渕須直はこう語っている。「聖地巡礼に来て、目の前にあるものをそのまま見ても、この作品の場合は意味がない。そこから先の様相を、想像しなくてはいけないと思っていて……。今、公園になっているところに町がありました。平和なときの町の姿があれば、原爆が落ちて大変なことになった瞬間の町の姿もあり、そこから復興を経て公園になっていく姿もある。その時の流れを感じられる、最初の道しるべとしての映画があるみたいなものがいいんじゃないかな」

「人生劇場」© 東映

映画「人生劇場」に合わせて早稲田大学の看板に付け替えられた岐阜大学農学部

岐阜を舞台とする映画にもまた、失われた風景が記録されている。1960 年代の岐阜市を知っている観客は、物語自体への興味とは別に、『拳銃無頼帖　明日なき男』（1960 年）に登場する国鉄岐阜駅旧駅舎を懐かしく眺めるだろうし、『喜劇 競馬必勝法 大穴勝負』（1968 年）の冒頭に記録された岐阜駅前の繊維問屋街の賑わいに感動するだろう。当時の岐阜を知らない私にも、これらの映画は現在の風景との対照がとても興味深い。こうした視点で、失われた風景に思いを馳せて映画を見ることもまた、ノスタルジアと結びついた聖地巡礼と言えるかもしれない。

「明日なき男」© 日活

戻りたくなる懐かしい場所

このあたりで、「聖地」であるとはどういうことかという疑問への解答案を述べておく。自分が実際に行ったことがあるかないかに関わらず「懐かしい」と感じられる場所、その中に入り込みたい／戻りたいと思わせるような場所こそ、映像作品における「聖地」なのだ。（ということは逆に、何らかの嫌な記憶と結びついた場所は、映像を見るだけでトラウマを呼び起こす言わば「逆聖地」となるだろう。）

今から 10 年後、岐阜大学が創立 80 周年を迎えるころ、すでに定年退職しているはずの私は、経済効率だけを重視した大学病院内の無謀な組織改編計画がもたらす悲劇を描いた『ジェネラル・ルージュの凱旋』を見直して、そこに刻まれたかつての岐阜大学の映像をどのような思いで眺めるのだろうか。今後の岐阜大学が、私たち関係者にとって大切な「聖地」であり続けてほしいと心から願う。

参考文献

植島啓司『聖地の想像力 なぜ人は聖地をめざすのか』［電子版］集英社新書 , 2000.
ミルチャ・エリアーデ著 , 久米博訳『聖なる空間と時間 宗教学概論 3』せりか書房 , 1974.
岡本健『巡礼ビジネス ポップカルチャーが観光資産になる時代』［電子版］角川新書 , 2018.
岡本亮輔『聖地巡礼 世界遺産からアニメの舞台まで』［電子版］中公新書 , 2015.
片渕須直・柿崎俊道『聖地会議 Vol. 21』［電子版］booklista, 2018.

神山征二郎『郡上一揆』（2000 年）

田澤晴子【岐阜大学教育学部教授（史学）】

日本の戦後映画で初めて農民一揆を描いた『郡上一揆』について、映画評論家の山田和夫は「久しぶりの怒りの映画」「神山監督の全力投球の気迫に拍手」と賛辞を贈った（『キネマ旬報』2001 年 2 月号）。岐阜県及び県内各種団体や農協、3500 人の市民エキストラの力を結集して実現した、製作過程も「一揆」のような映画である。

郡上一揆とは、美濃国郡上郡金森藩で 1754 年（宝暦 4）から足かけ 5 年間闘われた百姓一揆のことである。郡上郡では他にも 3 度一揆が起っており、区別するため「宝暦郡上一揆」と呼ばれている。一揆の発端は、財政難の藩が実施しようとした徴税方法転換（定免法から検見取へ）による実質的増税に対する百姓たちの反発である。その特徴は、5 年という長期間に及んだことがあげられる。八幡城への強訴から始まった一揆は、駕籠訴（幕府高官に直訴）、箱訴（将軍への直訴）へと展開していくことになった。また郡内は一揆続行を主張する立者（たてもの）と、領主側につく寝者（ねもの）とに分裂し抗争がくりひろげられた。そして幕府吟味の結果、郡上の金森藩主の領地没収をはじめ、幕府中枢である老中、若年寄、大目付、勘定奉行などが処罰をうけた。百姓一揆を一因として幕府高官が処分されるのは 3700 余件の一揆のなかで宝暦郡上一揆しかなく、幕府を揺るがした唯一の民衆闘争といえる。

実は映画の 35 年以上前に「宝暦郡上一揆」は演劇化されていた。こばやしひろし（1927-2011）作『郡上の立百姓』（1964 年初演）である。岐阜市出身のこばやしは社会科高校教員のかたわら劇団はぐるまを立ち上げた。作品は地域に根ざす劇団の十周年公演として企画された。その内容は県内外で好評を博し、中国はじめ日本各地で他の劇団によって公演された。作品を観た山本薩夫は映画化を試み、1971 年にシナリオが発表されるも実現しなかった。映画の場合巨額の費用と多数の協力者が必要で、多くの条件を満たす必要があった。

2016 年、紀伊國屋ホールで青年劇場により上演された「郡上の立百姓」公演のポスター

「郡上一揆」の脚本（筆者撮影）

その困難な映画化を成し遂げたのが本作『郡上一揆』である。「映画化をめざす郡上義民の会」が発足し、地元の機運を盛り上げたことが成功の一因である。その立役者である郡上市白鳥町の荒井誠二氏に話を聞いた。荒井氏は地元に U ターン後、郡上の歴史文化を継承する大切さを実感したそうだ。そして宝暦義民の慰霊法要が衰退する状況をみて、映画『さくら』で知り合った神山監督に 3 度映画化を打診した。4 億円を超える資金の調達や農協幹部、岐阜県への協力依頼等に奔走し映画製作を陰で支えた。当時の自分を駆り立てたのは、宝暦郡上一揆を映像化して子孫に残したいという一念だったという。映画を通じ地域の歴史に誇りをもち、自分の意見を言える力や生きる力を養ってほしい、と語ってくれた。

© 郡上一揆製作委員会

「郡上一揆」のフィルム（筆者撮影）

地元の思いを受けて完成した映画『郡上一揆』は、一揆の中心人物の前谷村定次郎一家を物語の中心としている。「村の役に立つ人間になれ」という父の教えを忠実に守る庄屋筋の定次郎とその意志を支える妻かよと子供が、現代の私たちに一揆を身近に感じさせる。また、傘連判状への署名、江戸の金森藩邸への願書提出、駕籠訴、箱訴という一揆の作法が忠実に再現されており、農民たちの理性的で秩序だった闘いの方法が明らかにされている。そして幕府による百姓たちへの拷問の様子を克明に描き、死を賭けた定次郎らの覚悟と誇りが表現されている。

映画により郡上一揆の歴史研究は一気に進んだ。そして一揆で命を落とした義民の顕彰活動やロケ地ツアーが開催され、小中学校の学習活動で郡上一揆が取り上げられるようになった。映画による地域の文化振興への影響は多大なものがあったといえよう。

最後に演劇『郡上の立百姓』と映画『郡上一揆』の内容の違いにふれておきたい。演劇では百姓らの要求した検見取阻止が結局叶えられなかったことをエピローグで示し、無言の郡上踊りで幕がおりる。映画はこの点に触れていない。民衆の要求貫徹にこだわった演劇と、地域の誇りや伝統復活を意図した映画の違いの反映とみることができよう。

岐阜出身の映画監督篠田正浩—その演劇的作品世界

矢橋　透【岐阜大学教育学部教授（仏文学）】

篠田正浩監督　© Mineko Orisaku

今回の特集上映のテーマは「岐阜を舞台とした映画」ということだが、岐阜と映画を語るさいに、「岐阜出身の映画監督」という視点も可能だろう。その場合、篠田正浩、神山征二郎、またドキュメンタリー映画の土本典昭らの名がまず挙げられようが、今回私は篠田監督を採りあげたい。篠田は、1931 年現在の岐阜市殿町に生まれ、県立加納高校を卒業、早稲田大学に進学するまでをこの地で過ごした（監督はその著書のなかで幾度も、柳ケ瀬の映画館で見た黒澤明の『姿三四郎』が、映画に魅せられるきっかけになったことを語っている）。ここでは、私が近年追求しているテーマに引き付けて篠田作品を論じることをお許し願いたい。私は、『文學界』に連載し、その後『ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場』（フィルムアート社）として刊行した一連の論考において、一般に小型カメラを抱え現実空間でロケ撮影を行う、ドキュメンタリー的な映像というイメージで捉えられてきたフランス・ヌーヴェル・ヴァーグ映画の監督たちが、実際には共通して、演劇を特権的に参照することで従来の映画を革新し、またヨーロッパで古代以来連綿と続いてきた世界劇場イメージに連なる作品世界を提示していることを明らかにした。ところが、一時期松竹ヌーヴェル・ヴァーグと称されたこともある篠田も、まさに演劇と関わることで映画作家としての独自性を確立したのである。

篠田は著書『私が生きたふたつの「日本」』のなかで、戦前軍国少年として教育されたのが、戦後一転して自由な資本主義的世界に投げ込まれ、社会にたいしある種の違和感を抱いていたこと、また映画のなかで何を描くべきか迷っていたことを回想している。そんななか、三島由紀夫や寺山修司から触発を受けつつ、大学時代演劇学の権威河竹繁俊から講義を受け強烈な印象を受けた、死や悪が深く刻み込まれた前近代日本の芸能の世界に目覚める。そして、近松門左衛門の浄瑠璃が原作の『心中天網島』（1969 年）で、大胆に形象された人工的セットのもと、役者に古典芸能的な様式的演技をさせ、なにより黒子を登場させるという、従来の映画のリアリズムとはかけ離れた画期的演出を行った。主人公の男女はと言えば義理と愛欲に絡まれ、黒子に誘導されるがまま死の世界に誘い込まれるのであり、これまた映画が主として描いてきた「（主体的に）行動する人間」とは異質な人間像が描かれることとなった。続く『無頼漢』（1970 年）では、今度は河竹黙阿弥の歌舞伎台本から材が取られ、前作と同様の人工的セット・様式的演技が採用されつつも、前作の幽玄なモノクロ映像とは異なった、華やかでポップなカラー映像が見られることになる。そして内容的にも、水野忠邦の庶民の歓楽を奪う政策にたいし、河内山宗俊や職を奪われた芸人たちが反旗を翻し、花火のように一瞬の生の燃焼を生き抜くさまが描かれ、前作の受動的人間像とは異なる刹那的人間像が描かれる。篠田は以上の二作で、古典演劇の導入により既存の映画のリアリズム的演出を刷新することに成功し、映画作家としての評価を決定づけた。だが同時に、両作品において、中世的な「憂世（うきよ）」と近世的な「浮世（うきよ）」という、微妙に異なるふたつの劇場的世界観を描き分けてもいるのである。

その後も篠田は、ラジカルな演出こそ影を潜めるものの、『はなれ瞽女おりん』、近松原作の『槍の権三』そして『写楽』と、日本の古典芸能を主題とした作品を撮り続けた。また監督を引退したのちも、『河原者のススメ』など日本の芸能演劇史に関する著書をものしており、演劇は彼にとってもっとも重要な主題をなしていると言ってよい。さらに、演劇が直接扱われていない場合でも、たとえば『乾いた湖』や『暗殺』といった初期作品において、浮遊的仮面的な（テロリストの）主人公を登場させていることにも注目したい。これらの人物は堅固な価値観を有しておらず、その場の状況により役者のように変わり身を果たしていくのであるが、それには幾分とも、篠田自身が戦後既存の価値観の崩壊を経験したことが反映されているのではないか。ところが、こうした第二次世界大戦による従来的価値観の崩壊と世界の流動化劇場化とでも言うべき現象は、フランス・ヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たちにも見られるのであり、たとえばアラン・レネやクロード・シャブロルは、戦後価値観が激変し社会が芝居のように見えた経験を語り、その作品において浮遊的仮面的な人物を描き続けた。以上見てきたように、篠田正浩の作品世界は、演劇への強い関心、それと呼応する劇場的世界観（役者的登場人物）という、フランス・ヌーヴェル・ヴァーグとの（かなり本質的な）共通性を呈していると言えるのである。

岐阜がロケ地となった映画一覧

	タイトル	公開年	配給	監督	キャスト	ロケ地	DVD の発売状況
1	知らずの弥太郎	1954	大映	森一生	長谷川一夫、山根寿子	岐阜市（長良小津、藍川橋）	DVD 未発売
2	遠い雲	1955	松竹	木下惠介	高峰秀子、佐田啓二	高山市内	木下惠介生誕 100 年「遠い雲」3,024 円　松竹
3	麝香屋敷	1955	大映	田坂勝彦	長谷川一夫、高峰三枝子	岐阜市（元浜町）、羽島市（桑原町）	DVD 未発売
4	白い魔魚	1956	松竹	中村登	有馬稲子、石浜朗	岐阜市（鵜飼、長良川、いとう旅館、藍川橋、岐阜駅）	DVD 未発売
5	青い山脈（1957）	1957	東宝	松林宗恵	雪村いづみ、久保明	中津川市（旧国鉄中津川駅、根の上高原）、恵那市	DVD 未発売
6	弥太郎笠	1957	大映	森一生	市川雷蔵、浦路洋子	岐阜市（日野）	「弥太郎笠」　1,978 円　株式会社オフィスワイケー
7	永遠に答えず　完結篇	1958	日活	西河克己	月丘夢路、葉山良二	高山市（高山市街、高山駅ホーム、高山城跡、城山公園）	DVD 未発売
8	眼の壁	1958	松竹	大庭秀雄	佐田啓二、鳳八千代	瑞浪地区	＜あの頃映画＞「眼の壁」3,024 円　SHOCHIKU Co.,Ltd.
9	実いまだ青し	1959	日活	牛原陽一	川地民夫、宇野重吉	高山市（飛田、大新町、日下部市長宅、東山寺、朝日町）	DVD 未発売
10	拳銃無頼帖　明日なき男	1960	日活	野口博志	赤城圭一郎、笹森礼子	岐阜市（岐阜駅、市内、旧加納町役場、柳ヶ瀬通、長良川、鶯谷トンネル、金華山ドライブ・ウェイ、金華山ロープウェイ、木曽川）、海津郡（油島・千本松原）、多治見市、大垣市（大垣城）	「拳銃無頼帖」コンプリート DVD-BOX　15,120 円　Happinet
11	散弾銃（ショットガン）の男	1961	日活	鈴木清順	二谷英明、芦川いづみ	中津川市（高樽の滝、付知川上流域）	DVD 未発売
12	ずらり俺たちゃ用心棒	1961	日活	松尾昭典	二谷英明、和田浩治	岐阜市（岐阜駅西側ガード下、岐阜駅構内、長良川堤、長良川土手、長良橋上流北側大仏前、柳ヶ瀬付近、水道山プラネタリウム）、関市（関駅）、各務原市（那加町境川付近）、美濃加茂市（美濃太田駅）	DVD 未発売
13	続・社長道中記	1961	東宝	松林宗恵	森繁久彌、久慈あさみ	岐阜市（長良川（鵜飼い））岐阜地区	DVD 廃盤
14	霧の夜の男	1962	日活	松尾昭典	高橋英樹、吉永小百合	下呂市（下呂温泉・水明館）飛騨地区	DVD 未発売
15	車掌物語　旅は道づれ	1962	日活	春原政久	小沢昭一、清水まゆみ	岐阜市（岐阜駅）、高山市（高山駅）、飛騨市（飛騨古川辺りの鉄路）	DVD 未発売
16	憎いあンちくしょう	1962	日活	蔵原惟繕	石原裕次郎、浅丘ルリ子	大垣市	日活 100 周年邦画クラシック GREAT20「憎いあンちくしょう」ＨＤリマスター版　1,944 円　Happinet
17	男の紋章	1963	日活	松尾昭典	高橋英樹、石山健二郎	岐阜市（川原町、米屋町沿いの洋館群、霞橋）	DVD 未発売
18	関東遊侠伝	1963	日活	松尾昭典	小林旭、和田浩治	岐阜市（元浜町・旧家、長良川堤）	DVD 未発売
19	関の彌太ッペ	1963	東映	山下耕作	中村錦之助、十朱幸代	岐阜市（金華山、長良川）　岐阜地区	「関の彌太ッペ」3,024 円　TOEI COMPANY,LTD.
20	乾いた花	1964	松竹	篠田正浩（岐阜出身）	池部良、加賀まりこ	岐阜ロケなし	＜あの頃映画＞「乾いた花」1,982 円　SHOCHIKU Co.,Ltd
21	新・男の紋章　度胸一番	1964	日活	滝沢英輔	高橋英樹、和泉雅子	岐阜市（市内、元浜町、美登里橋）	DVD 未発売
22	東海遊侠伝	1964	日活	井田探	小林旭、宍戸錠	岐阜市（玉井町）	DVD 未発売
23	花咲く乙女たち	1965	日活	柳瀬観	舟木一夫、西尾三枝子	岐阜市（長良橋、岐阜公園、金華山、岐阜駅）、羽島市（岐阜羽島駅）	DVD 廃盤
24	求婚旅行	1965	松竹	市村泰一	桑野みゆき、池部良	岐阜市（長良川（鵜飼い）	DVD 未発売
25	男の紋章　俺は斬る	1965	日活	井田探	高橋英樹、和泉雅子	岐阜市（元浜町・美登里橋）	DVD 未発売
26	男の紋章　喧嘩街道	1965	日活	滝沢英輔	高橋英樹、笹森礼子	岐阜市（長良川河畔）	DVD 未発売
27	男の紋章　竜虎無情	1966	日活	松尾昭典	高橋英樹、和泉雅子	岐阜市（元浜町美登里橋附近、長良川沿いの芥見町）	DVD 未発売
28	喜劇　競馬必勝法	1968	東映	瀬川昌治	谷啓、白川由美	岐阜市（金華山ロープウェイ、問屋町商店街、萬松館）、笠松町（笠松競馬場）	DVD 未発売
29	男はつらいよ　柴又慕情	1972	松竹	山田洋次	渥美清、吉永小百合	多治見市	「男はつらいよ・柴又慕情」　1,944 円　松竹
30	嗚呼 !! 花の応援団	1976	日活	曽根中生	今井均、香田修	関市（尾瀬）	DVD 廃盤
31	トラック野郎・突撃一番星	1978	東映	鈴木則文	菅原文太、原田美枝子	下呂市（下呂温泉、合掌村、峰一号遺跡）	「トラック野郎 突撃一番星」3,024 円　TOEI COMPANY,LTD.
32	あゝ野麦峠	1979	東宝	山本薩夫	大竹しのぶ、原田美枝子	野麦峠（高山市）	「ああ野麦峠」＜東宝 DVD 名作セレクション＞ 2,700 円　東宝
33	夜叉ヶ池	1979	松竹	篠田正浩	坂東玉三郎、加藤剛	揖斐郡揖斐川町（旧坂内村）	DVD 未発売
34	遙かなる走路	1980	松竹	佐藤純彌	市川染五郎、米倉斉加年	岐阜市（元浜町）	「遙かなる走路」3,990 円　松竹
35	人生劇場	1983	東映	深作欣二、佐藤純彌、中島貞夫	三船敏郎、松坂慶子	各務原市（岐阜大学旧農学部校舎）	「人生劇場」3,024 円　TOEI COMPANY,LTD
36	ふるさと	1983	松竹	神山征二郎（岐阜出身）	加藤嘉 、長門裕之	揖斐郡揖斐川町（旧徳山村）	「ふるさと」4,104 円　ローランズ・フィルム
37	男はつらいよ　知床慕情	1987	松竹	山田洋次	渥美清、竹下景子	岐阜市	「男はつらいよ・知床慕情」1,944 円　松竹
38	安心して老いるために	1990	岩波ホール	羽田澄子	ドキュメンタリー	揖斐郡（池田町特別養護老人ホーム）	DVD 未発売
39	男はつらいよ　寅次郎の告白	1991	松竹	山田洋次	渥美清、吉田日出子	恵那市（奥恵那峡・蛭川）　東濃地区	「男はつらいよ・寅次郎の告白」1,944 円　松竹
40	男はつらいよ　寅次郎の青春	1992	松竹	山田洋次	渥美清、風吹ジュン	下呂市（下呂温泉・白鷺橋）飛騨地区	「男はつらいよ・寅次郎の青春」1,944 円　松竹
41	薄れゆく記憶のなかで	1992	日本ヘラルド	篠田和幸（岐阜出身）	堀真紀、菊池麻衣子	岐阜市（オール岐阜ロケ）	DVD 廃盤
42	雲南物語	1994	シネマスコーレ	チャン・ヌアンシン	リュー・シュウリン、プー・ツンシン	郡上市（大和町、七代天神社）	DVD 未発売　※香港・中国合作映画
43	学校の怪談 2	1996	東宝	平山秀幸	野村宏伸、前田亜季	加茂郡白川町（下佐見小学校）	「学校の怪談 2」[東宝 DVD 名作セレクション] 2,700 円　東宝
44	学校の怪談 3	1997	東宝	金子修介	西田尚美、前田亜季	下呂市（下呂小学校、下呂温泉望川館）	「学校の怪談 3」[東宝 DVD 名作セレクション] 3,470 円　東宝
45	時をかける少女（1997）	1997	(新) 角川春樹事務所	角川春樹	中本奈奈、野村宏伸	飛騨市古川町	DVD 廃盤
46	GOING WEST 西へ・・・	1997	東映	向井寛	淡島千景、大沢樹生	恵那市	DVD 廃盤
47	郡上一揆	2000	郡上一揆製作委員会	神山征二郎（岐阜出身）	緒形直人、岩崎ひろみ	郡上市	DVD 廃盤
48	サトラレ	2001	東宝	本広克行	安藤政信、鈴木京香	郡上市（八幡町、白鳥町）、関市（中濃病院）	DVD 廃盤
49	少女～ an adolescent	2001	ニッポンムービー	奥田瑛二	奥田瑛二、小沢まゆ	多治見市（昭和町）	「少女」 3,672 円　タキコーポレーション
50	風の絨毯	2003	ソニー・ピクチャーズ	Kamal Tabrizi	柳生美結、榎木孝明	高山市	DVD 廃盤　※日本・イラン合作映画
51	空を飛んだオッチ	2005	シネマ・ディストキネティック	澤村正喜	山辺悠太、倍賞千恵子	飛騨市	DVD 未発売
52	長い散歩	2006	ジェネオンエンタテインメント	奥田瑛二	緒形拳、高岡早紀	多治見市、郡上市、美濃市、中津川市	「長い散歩」プレミアム・エディション 4,935 円
53	実写映画 テニスの王子様	2006	松竹	アベユーイチ	本郷奏多、城田優	岐阜市（岐阜メモリアルセンター）	DVD 廃盤
54	ミラクルバナナ	2006	ミラクルバナナ製作委員会	錦織良成	小山田サユリ、山本耕史	美濃市（うだつの上がる町並み）	「ミラクルバナナ」　4,104 円　BMG JAPAN Inc.
55	大奥	2006	松竹	林徹	仲間由紀恵、西島秀俊	美濃市（大矢田もみじ谷）	「大奥」スタンダード・エディション 800 円　ポニーキャニオン
56	呉清源～極みの棋譜～	2006	エスピーオー	ティエン・チュアンチュアン	チャン・チェン、柄本明	大野郡白川村（合掌造り民家園）	DVD 廃盤
57	あの空をおぼえてる	2007	ソニー・ピクチャーズ	富樫森	竹野内豊、水野美紀	岐阜大学、揖斐川町（揖斐高原）、大垣市、岐阜市（聖徳学園大学付属小学校）、各務原市（新境川桜並木道）、坂祝町、関市（中濃厚生病院他）、多治見市（市の倉市民の里「地球村」）、恵那市、土岐市（土岐市立総合病院）、中津川市（付知峡）	「あの空をおぼえてる」スタンダード・エディション 680 円　東宝
58	蟲師	2007	ショウゲート	大友克洋	オダギリジョー、江角マキコ	白川村（合掌造り民家園）、高山市（飛騨の里）、大垣市旧上石津町（国指定重要文化財桑原邸）、揖斐郡揖斐川町（伊吹山）	「蟲師」(通常版) 4,104 円　video maker
59	黄色い涙	2007	ジェイ・ストーム	犬童一心	二宮和也、相葉雅紀	大垣市（近鉄養老線西大垣駅）	「黄色い涙」【通常版】4,536 円 ジェネオンエンタテインメント
60	ひぐらしのなく頃に	2008	ファントム・フィルム	及川中	前田公輝、飛鳥凛	大野郡白川村 飛騨地区	「ひぐらしのなく頃に 劇場版」スタンダード・エディション　840 円　Frontier Works Inc
61	僕の彼女はサイボーグ	2008	ギャガ	クァク・ジェヨン	綾瀬はるか、小出恵介	郡上市八幡町（宗祇水・新橋）	DVD 廃盤
62	ジェネラルルージュの凱旋	2009	東宝	中村義洋	竹内結子、阿部寛	岐阜大学医学部附属病院	「ジェネラル・ルージュの凱旋」4,935 円　TC エンタテインメント
63	ゼロの焦点	2009	東宝	犬童一心	広末涼子、中谷美紀	飛騨市古川町（瀬戸川用水、八ッ三館、古川・国府線）	「ゼロの焦点」5,040 円　東宝
64	さよなら夏休み	2010	さよなら夏休み製作委員会	小林要	緒形直人、立花美優	郡上市八幡町（郡上踊り、郡上八幡駅、大乗寺、吉田川、渡辺染物店等）	DVD 廃盤
65	SPACE BATTLESHIP ヤマト	2010	東宝	山崎貴	木村拓哉、黒木メイサ	揖斐川町（横山ダム）、多治見市（粘土採土場）	「SPACE BATTLESHIP ヤマト」スタンダード・エディション 2,700 円　TC エンタテインメント
66	十三人の刺客	2010	東宝	三池崇史	役所広司、山田孝之	中津川市（落合宿）	「十三人の刺客」豪華版　6,264 円　東宝
67	ALWAYS 三丁目の夕日 '64	2011	東宝	山崎貴	吉岡秀隆、小雪	羽島市（桑原町長良川堤防）	「ALWAYS 三丁目の夕日 '64」 通常版 4,104 円　東宝
68	ふるさとがえり	2011	NAKED INC.	林弘樹	渋江譲二、佐藤仁美	恵那市（坂折棚田、恵那峡、飯地小学校、大正村、明智駅、東濃牧場、岩村城跡、林昌寺）	「ふるさとがえり」 5,184 円　IVC,Ltd."
69	聯合艦隊司令長官　山本五十六 - 太平洋戦争 70 年目の真実 -	2011	東映	成島出	役所広司、玉木宏	岐阜市（岐阜総合庁舎）	「聯合艦隊司令長官山本五十六 - 太平洋戦争　70 年目の真実 -」4,104 円　バンダイビジュアル
70	復讐したい	2011	キャンター、スターキャット	室賀厚	水野勝、高橋メアリージュン	多治見市（かかみがはら航空宇宙科学博物館、テクノプラザ、各務原市民球場）	「復讐したい」 5,184 円　キングレコード
71	キツツキと雨	2012	KADOKAWA	沖田修一	役所広司、小栗旬	恵那市（岩村駅、東濃牧場、東濃牧場、明知鉄道岩村駅）、中津川市（常盤座、風神神社）、瑞浪市、白川町（山林風景）、東白川村（東白川村森林組合）	「キツツキと雨」 通常版 5,076 円　角川書店
72	あなたへ	2012	東宝	降旗康男	高倉健、田中裕子	飛騨市（ドライブステーション板蔵、飛騨エアパーク、昭和シェルリブレ神岡 SS）、高山市（乗鞍スカイライン）	「あなたへ」 5,076 円　東宝

73	四十九日のレシピ	2013	ギャガ	タナダユキ	永作博美、石橋蓮司	東農地方	DVD 廃盤
74	藻の楯	2013	ワーナー・ブラザース映画	三池崇史	大沢たかお、松嶋菜々子	岐阜市（岐阜県庁舎）、大垣市（岐阜県西濃総合庁舎、東海環状自動車道（大垣西 IC ～養老 JCT 間））、多治見市 （名古屋市愛岐処分場）、恵那市（矢作ダム管理所）	「藻の楯」1,234 円　ワーナー・ブラザース・ホームエンターテイメント
75	Father	2013	アーク・フィルムズ	市原直、杉山嘉一、月野木隆	桜木梨奈、尾関伸嗣	土岐市	「Father」　4,104 円　TC エンタテインメント
76	WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～	2014	東宝	矢口史靖	染谷将太、長澤まさみ	中津川市（明知鉄道飯沼駅）	「WOOD JOB! ~ 神去なあなあ日常 ~」スタンダード・エディション 4,104 円　東宝
77	寄生獣・完結編	2015	東宝	山崎貴	染谷将太、深津絵里	多治見市内	「寄生獣 完結編」通常版 4,104 円　東宝
78	ポプラの秋	2015	アスミック エースシナジー	大森研一	本田望結、中村玉緒	高山市	「ポプラの秋」4,212 円　Happinet
79	きっといつの日か	2015	「きっと いつの日か」製作委員会	日暮英典	塩野瑛久、伊藤洋三郎	各務原市（川崎重工、東海中央病院）	DVD 未発売
80	ルドルフとイッパイアッテナ （アニメ作品）	2016	東宝	湯山邦彦、榊原幹典	【声】井上真央、鈴木亮平	岐阜市	「ルドルフとイッパイアッテナ」4,104 円 バップ
81	君の名は。（アニメ作品）	2016	東宝	新海誠	【声】神木隆之介、 上白石萌音	飛騨市古川町	「君の名は。」スタンダード・エディション 4,104 円　東宝
82	映画　聲の形（アニメ作品）	2016	松竹	山田尚子	【声】入野自由、早見沙織	大垣市、養老町、岐阜市	映画『聲の形』4,104 円 ポニーキャニオン
83	四月は君の嘘	2016	東宝	新城毅彦	広瀬すず、山崎賢人	郡上市八幡町	「四月は君の嘘 通常版」4,104 円 東宝
84	銀魂	2017	ワーナー ブラザーズ	福田雄一	小栗旬、菅田将暉	大垣市（八幡神社）	「銀魂」4,309 円 ワ　ーナー・ブラザース・ホームエンターテイメント
85	君の膵臓を食べたい	2017	東宝	月川翔	浜辺美波、北村匠海	本巣郡北方町（アルシオーネ・コート）	「君の膵臓をたべたい 通常版」4,104 円 東宝
86	氷菓	2017	KADOKAWA	安里麻里	山崎賢人、広瀬アリス	高山市（斐太高等学校、弥生橋、宮川河川敷、高山市図書館「煥章館」）	「氷菓　通常版」4,104 円　PONY CANNYON Inc
87	モリのいる場所	2018	日活	沖田修一	山崎努、樹木希林	岐阜ロケなし	DVD 未発売（岐阜県出身の画家熊谷守一を題材）
88	母を亡くした時、僕は遺骨を食べたいと思った。	2019	ぼくいこ制作委員会	大森立嗣	安田顕、倍賞美津子	大垣市（大垣市民病院、鶴見斎場、大垣市立西中学校）、揖斐郡池田町（池田山）、養老郡養老町、不破郡垂井町	DVD 未発売

赤字は、岐阜大学がロケ地となった作品です。　（長屋倫明・鷲見浩二編）

【企画】
森脇久隆（岐阜大学長）
野村幸弘（岐阜大学教育学部教授）

【調査・構成】
丹羽雅之（岐阜大学連合創薬医療情報研究科長）
長屋倫明（岐阜大学医学系研究科・医学部事務部事務長補佐）
鷲見浩二（岐阜大学研究推進部研究推進課課長補佐）
加藤洋平（岐阜大学総合企画部企画課調査分析係長）
内田智也（岐阜大学学務部教務課教学企画係長）
二村孝史（岐阜大学学務部学生支援課学生支援係長）

【資料提供】
杉山道雄
柳田恭宏
池戸忠克

【協力】
岐阜土地興業株式会社
篠田元弘社長
磯谷貴彦企画本部長
大野信浩総支配人

【謝辞】
岐阜大学名誉教授、杉山道雄氏には、映画「人生劇場」のロケを最初にご教示下さり、多くの関連情報を提供していただきました。また 1983 年に岐阜大学農学部を卒業された柳田恭宏氏には、映画「人生劇場」のストーリーに合わせ、看板が早稲田大学になっている貴重な写真を提供していただきました。岐阜大学 70 周年プロジェクト事務局事業部長、同窓会連合会・アーカイブ館担当の池戸忠克氏には、映画「ジェネラルルージュの凱旋」に関する情報を多数、提供していただきました。各氏にこの場を借りて篤く御礼申し上げます。また「郡上の立ち百姓」ポスターの掲載許可をいただいた青年劇場、神山プロダクション、篠田正浩監督の写真を提供していただいた表現社に感謝いたします。

* 巻末の資料を含め本パンフレットの内容を引用される場合には、出典として本パンフレットを下記の通り明記して下さい。
岐阜大学創立 70 周年記念イベント「岐阜がロケ地となった映画」岐阜大学　2019 年

岐阜大学創立 70 周年記念イベント
岐阜がロケ地となった映画

2019 年 6 月 8 日発行

発行　国立大学法人岐阜大学 創立 70 周年記念映画上映プロジェクト
編集・デザイン　野村幸弘

〒 501-1193　岐阜市柳戸 1-1　TEL.058-230-1111（代）
URL: https://www.gifu-u.ac.jp/

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY